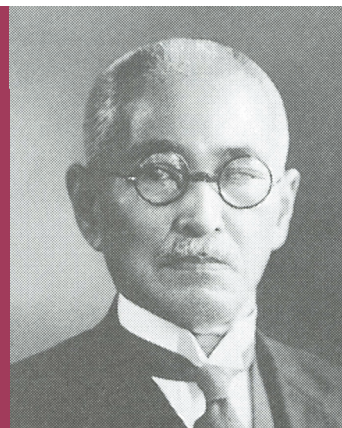


服部 漸 小伝

Susumu Hattori



服部漸氏は、慶応元年（1865年）姫路に生まれ、同地の中学校を卒業の後上京、大学予備門を経て明治25年7月東京帝国大学採鉱冶金科を卒業、東京鉱山監督署に勤務されたが、明治30年3月当時建設の途にあった官営八幡製鉄所に転じ、間もなく留学を命じられてドイツに赴き製鉄技術を実地に習得された。その後、海軍省の委嘱を受けてイギリスに渡り、各所の軍需工場を見学し、帰途アメリカの製鉄事業を視察して帰国、製鉄所技師に任じられた。それ以来、製鋼吹製科長、製鉄部銑鉄課長、製鉄部長等を歴任し、建設当初の困難な操業に処して渾身の努力を払い、特に高炉の操業については幾多の難局に直面したが、研究を重ね改善を加えてよくこれを克服し操業を完成せしめた。

明治43年5月、氏は再び欧米各国に出張を命じられ、各地の製鉄事業を視察の上、同44年2月に帰国、その後製鉄所臨時建設委員会委員長に任じられ、大正3年8月製鉄所次長に進み、大正4年2月博士会の推薦により工学博士の学位を授けられた。大正7年2月一時製鉄所長官事務取扱に任じられ、同8年6月製鉄所技監に転じ、同11年退官に至るまで前後25年に亘り製鉄所の建設とその発展のため尽力された。

製鉄所退官後も、氏は直ちに招かれて漢冶萍煤鉄公司の最高顧問となり、その後6年間日支合弁事業の指導に尽力し、昭和3年辞して帰国された。

昭和3年4月には、日本鉄鋼協会第7代会長に選ばれてその発展のために協力し、その間万国工業大会開催に際してはその副会長に挙げられて奔走、わが国の製鉄業を海外に紹介することに努められた。

製鉄所在官中はもちろん、その後においてもしばしば中国、朝鮮、満州（現中国東北部）に出張し、またその間民間製鉄所の技術的指導援助に関与し、特にわが国の各地溶鉱炉の火入れに当たってはほとんど全てに関与し、わが国製鉄高炉の育ての親とも申すべきである。

氏の製鉄所退官に際し、記念資金委員会が設けられ、その募集した金額の内金2万円を同委員会より日本鉄鋼協会に寄贈されたので、本会は昭和5年7月服部博士記念資金規則を設け、鉄鋼に関する学術および技術上の進歩発達に貢献した者に賞碑または賞金を贈ってこれを表彰することとした。この服部賞は鉄鋼協会内に設けられ各種賞の先駆をなすもので、昭和6年以降毎年授与されて今日に及んでいる。

日本鉄鋼協会は、大正14年その10周年記念大会に際し、製鉄功労賞碑を贈呈し、また昭和5年4月名誉会員に推薦して、氏のわが国製鉄事業並びに本会に対する功績を表彰した。

昭和15年9月18日、胆道ガンのため逝去された。享年72才。